

2023年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2023年9月29日



一般社団法人 **Jミルク**
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2023 年 7 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠牛頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、（独）家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠牛頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計。
- (3) 酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果については、考慮していない（2023 年 8 月までは実績として反映）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2023 年 7 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 POS データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2023 年度の気温は、「猛暑」で設定。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2023 年 7 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳や代替乳製品の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- (3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、今年度予測の 1 ヶ月平均出回り量を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測（P15の説明）

- (1) 「移入必要量（道外移出量）」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2) 「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

(1) 飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年8月からの飲用等向・はっ酵乳向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、牛乳・乳製品の価格と需要の相関を消費者物価指数または販売記録データ（POSデータ）と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

消費者物価指数の飲料全体（はっ酵乳は乳製品全体）に対する牛乳等生産量の各カテゴリ（P7）の相対価格指数を算出し、価格が10%改定（加工乳、乳飲料は7%改定）したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、牛乳等生産量予測のうち牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳とした。

※消費者物価指数

総務省統計局公表。消費者が購入するモノやサービスなどの物価の動きを把握するための統計指標。現時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として指数化したもの。全国の世帯が購入する家計に係る財及びサービスの価格等を総合した物価の変動を時系列的に測定する。

(2) 乳製品向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年12月からの乳製品向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、業務用を中心とした乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲食料全体に対する生クリーム、バターそれぞれの相対価格指数を算出し、価格が5%改定したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、用途別処理量のうち生クリーム等向（P10~12）、バター需給のうち推定出回り量（P14）とした。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現時点の価格を、基準時点（2020年）の価格を100として指数化したもの。企業間で取引される商品の価格を指数化した物価指数のこと。

※参考 価格改定率

	価格改定率（8月～）	価格改定率（12月～）
牛乳	+10%	—
加工乳	+7%	—
成分調整牛乳	+10%	—
乳飲料	+7%	—
はっ酵乳	+5%	—
チーズ	—	—
生クリーム	—	+5%
脱脂粉乳（出回り）	—	—
バター（出回り）	—	+5%

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2022年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	657	102.0%	364	103.5%	293	100.3%
5月	679	101.2%	379	102.5%	299	99.7%
6月	643	100.4%	364	100.8%	279	99.7%
7月	645	101.0%	372	101.5%	274	100.3%
8月	627	99.8%	364	100.9%	263	98.2%
9月	606	98.8%	349	99.1%	257	98.5%
10月	622	98.6%	353	98.5%	269	98.8%
11月	597	97.2%	337	97.0%	260	97.5%
12月	621	96.2%	350	95.5%	272	97.2%
1月	624	96.0%	350	95.3%	275	96.9%
2月	570	95.5%	318	94.7%	252	96.5%
3月	641	95.3%	355	94.5%	286	96.1%
第1四半期	1,978	101.2%	1,107	102.3%	871	99.9%
第2四半期	1,879	99.9%	1,085	100.5%	794	99.0%
第3四半期	1,840	97.3%	1,039	97.0%	801	97.8%
第4四半期	1,836	95.6%	1,023	94.8%	813	96.5%
上期	3,857	100.6%	2,192	101.4%	1,665	99.5%
下期	3,676	96.4%	2,062	95.9%	1,614	97.2%
年度計	7,533	98.5%	4,254	98.7%	3,279	98.3%

表1-2：2023年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績 白色：見通し）

（千トン）

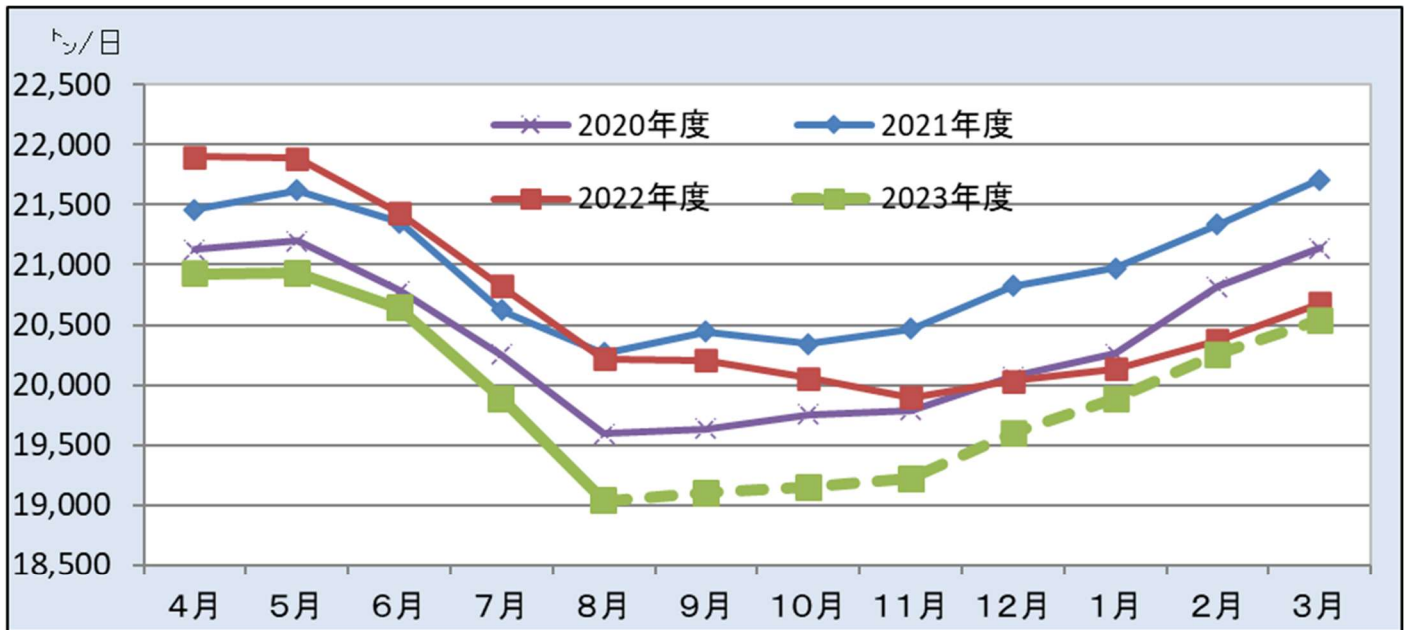
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	628	95.6%	349	95.9%	279	95.2%
5月	649	95.6%	366	96.6%	282	94.5%
6月	619	96.3%	356	97.8%	263	94.3%
7月	616	95.5%	359	96.4%	258	94.3%
8月	590	94.1%	343	94.2%	247	94.1%
9月	573	94.5%	331	95.0%	242	93.9%
10月	594	95.5%	340	96.2%	254	94.6%
11月	577	96.6%	328	97.5%	248	95.4%
12月	608	97.8%	345	98.8%	262	96.6%
1月	617	98.8%	349	99.8%	268	97.5%
2月	588	103.0%	330	103.9%	257	101.8%
3月	637	99.3%	355	100.0%	282	98.6%
第1四半期	1,896	95.8%	1,071	96.8%	825	94.7%
第2四半期	1,780	94.7%	1,033	95.2%	747	94.1%
第3四半期	1,778	96.6%	1,013	97.5%	765	95.5%
第4四半期	1,841	100.3%	1,034	101.1%	807	99.2%
上期	3,676	95.3%	2,104	96.0%	1,572	94.4%
下期	3,619	98.5%	2,047	99.3%	1,572	97.4%
年度計	7,295	96.8%	4,151	97.6%	3,143	95.9%

【2023年度生乳生産の見通し】北海道4,151千トン・同97.6%、都府県3,143千トン・同95.9%、全国7,295千トン・前年比96.8%の見通しである。北海道、都府県ともに前年を下回り、2年連続の減産となる見通し。

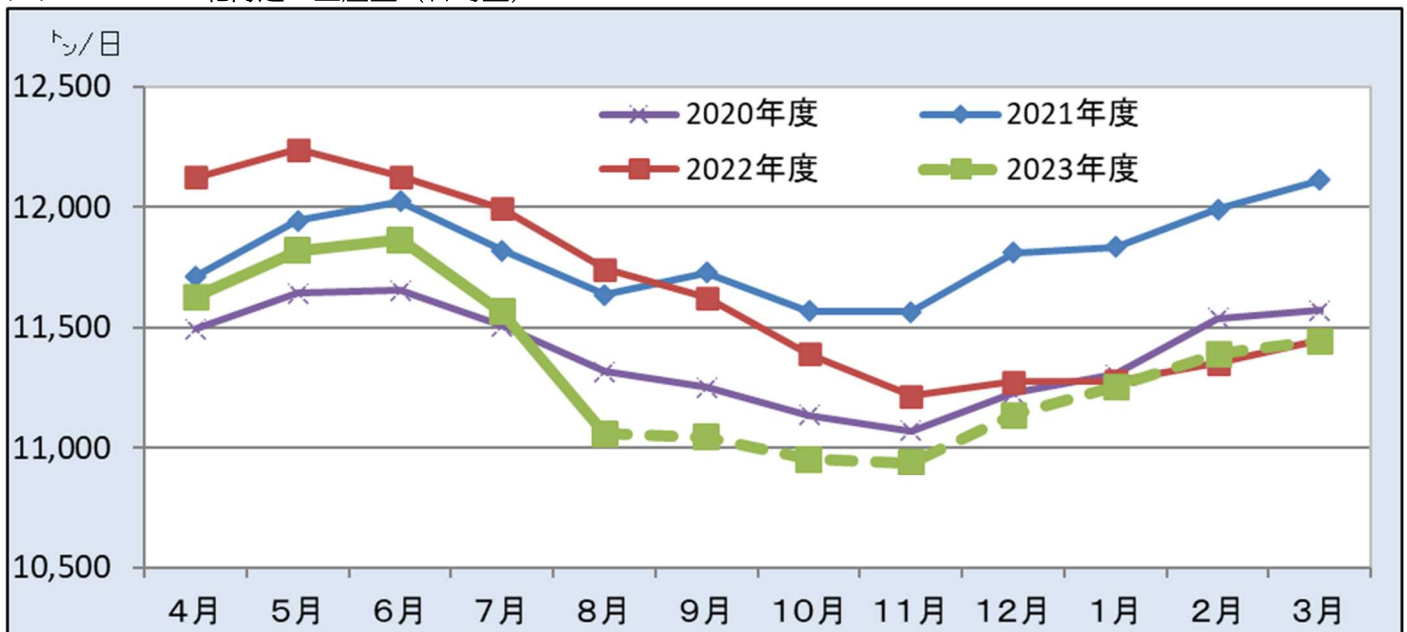
※9月以降の酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果は、考慮していない（8月までは実績として反映）。

【前回見通し（7/28公表）】北海道4,239千トン・同99.7%、都府県3,153千トン・同96.2%、全国7,393千トン・前年比98.1%

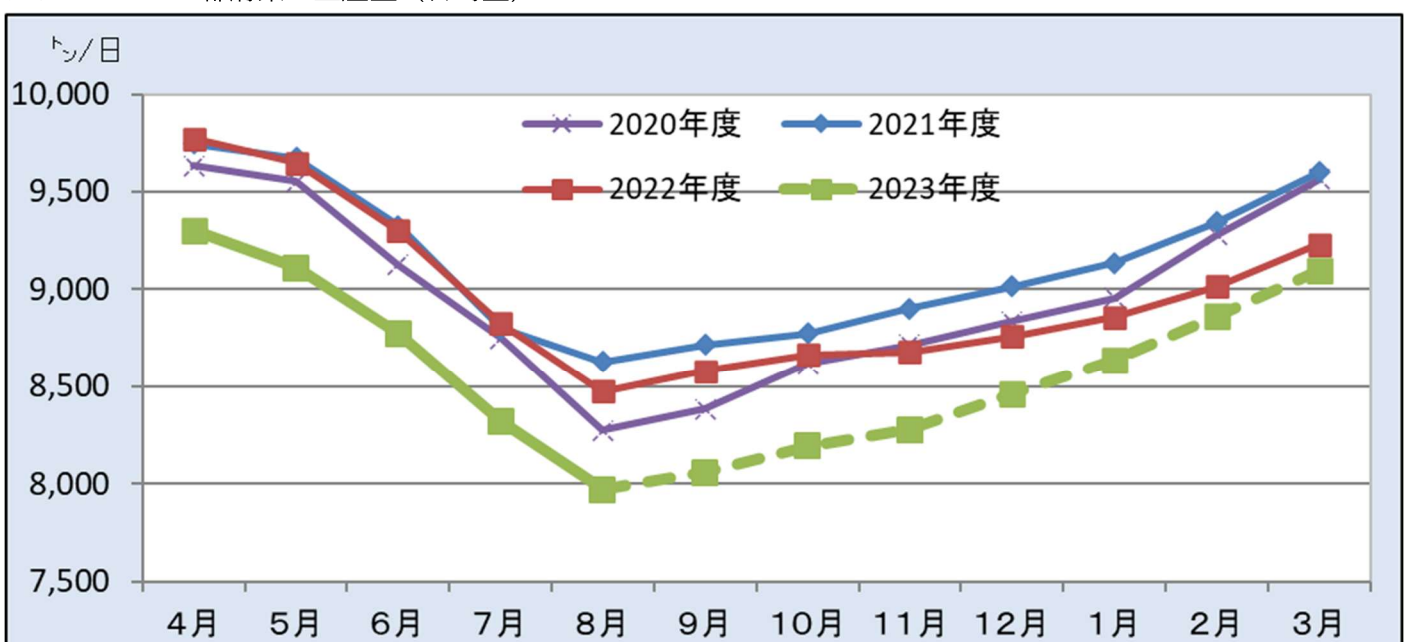
グラフ1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ1-2：北海道の生産量（日均量）

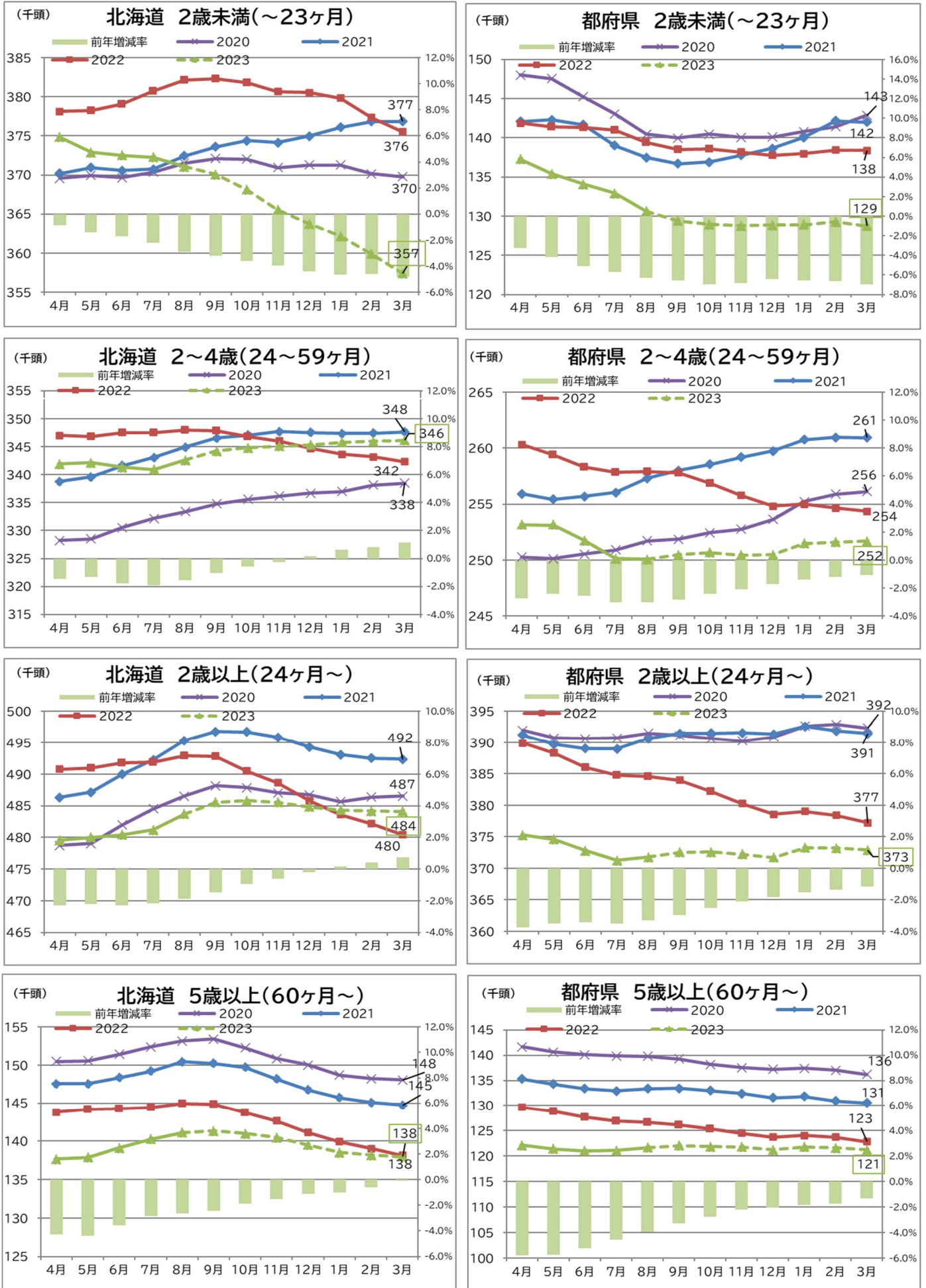


グラフ1-3：都府県の生産量（日均量）

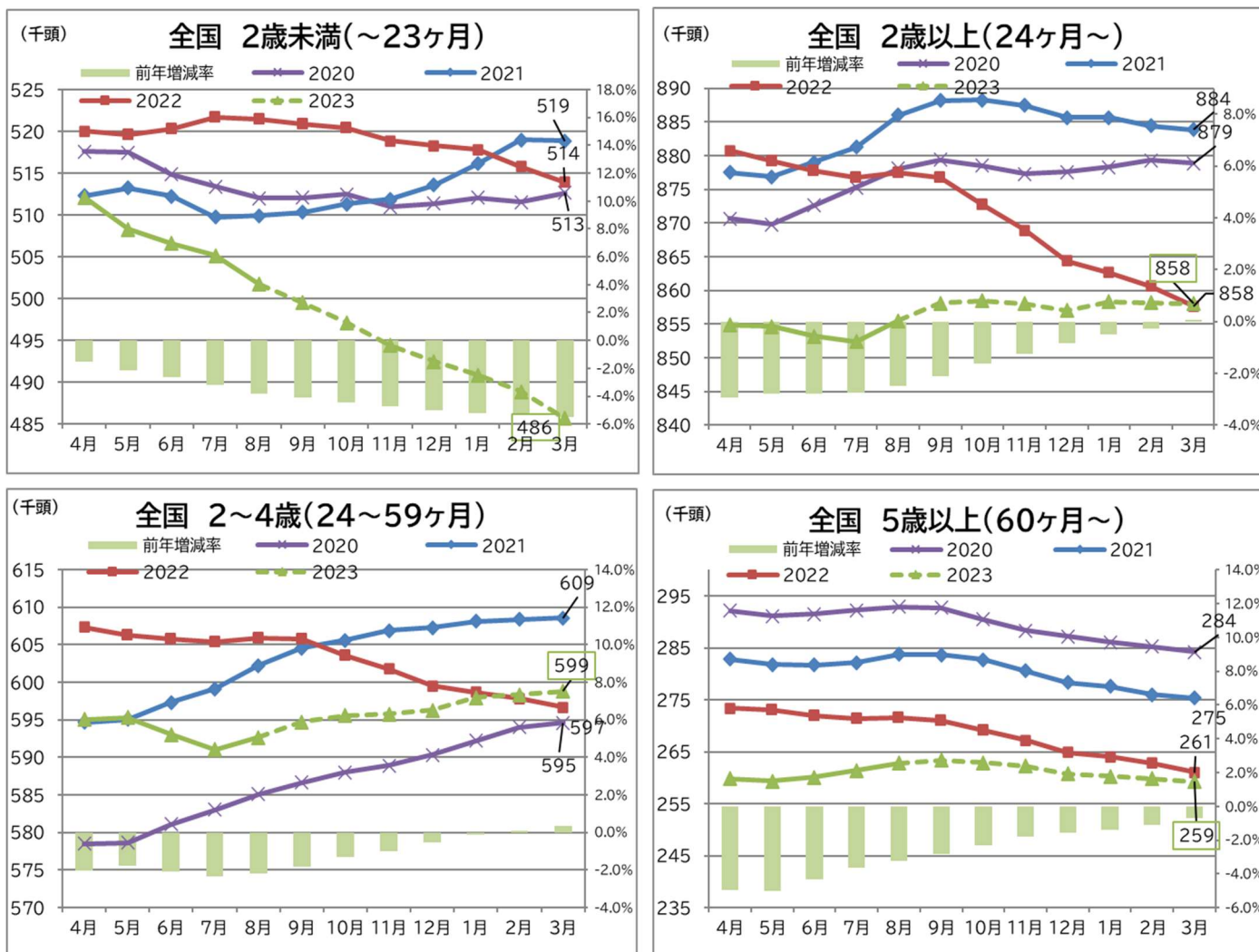


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2023年8月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2023年8月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2023年7月まで実績）



【2023年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数は3月末時点で北海道は約19千頭、都府県は約9千頭減少する見通し。乳用雌牛出生頭数(4-7月累計)は、北海道は前年比89.6%、都府県は同82.6%、全国では88.0%と前年よりも大きく減少している。
- ・搾乳牛となる2歳以上頭数は3月末時点で都府県は約4千頭減少、北海道は約4千頭増加する見通し。北海道では1月以降に2022年度を上回る予測となっている。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1: 2022年度の牛乳等生産量(網掛け:実績)

(千kl)

	牛乳類										加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳				
	牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外			前年比	前年比	前年比	前年比					
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比												
4月	382	99.9%	261	100.5%	26	95.0%	235	101.2%	24	97.0%	211	101.7%	10	112.0%	21	97.2%	89	97.5%	90	91.2%
5月	400	98.8%	275	98.9%	35	100.5%	241	98.7%	25	101.5%	216	98.4%	10	110.7%	22	95.2%	93	98.0%	92	92.4%
6月	401	98.1%	275	97.7%	39	97.7%	236	97.8%	22	93.7%	214	98.2%	10	107.3%	22	95.8%	94	98.7%	91	92.4%
7月	400	99.1%	270	99.7%	22	95.7%	248	100.0%	22	89.1%	226	101.2%	10	102.2%	23	98.2%	97	97.3%	91	93.1%
8月	394	100.8%	261	100.8%	7	119.2%	255	100.4%	26	96.8%	229	100.8%	11	119.2%	22	96.1%	99	100.1%	91	95.2%
9月	405	99.7%	277	99.9%	34	102.7%	243	99.5%	25	94.9%	219	100.0%	11	111.6%	22	96.6%	95	99.0%	88	93.2%
10月	406	99.8%	281	100.0%	36	97.1%	245	100.4%	29	103.1%	216	100.1%	12	114.0%	21	97.2%	92	98.1%	88	92.0%
11月	380	100.0%	260	98.4%	35	98.8%	224	98.3%	27	101.1%	197	97.9%	13	114.8%	20	97.1%	88	103.8%	81	90.5%
12月	363	98.2%	248	97.0%	28	95.8%	220	97.1%	25	105.1%	195	96.2%	13	114.3%	19	94.6%	82	100.8%	80	93.2%
1月	365	96.9%	251	95.6%	29	107.1%	221	94.3%	23	97.6%	199	93.9%	12	119.3%	20	93.3%	82	99.2%	84	92.5%
2月	341	97.1%	238	96.5%	34	110.4%	203	94.5%	20	89.8%	183	95.1%	11	111.9%	18	90.9%	75	98.8%	78	90.9%
3月	372	97.6%	252	96.7%	23	98.7%	229	96.5%	25	94.1%	204	96.9%	12	109.5%	20	93.1%	88	99.7%	86	90.2%
第1四半期	1,183	98.9%	811	99.0%	100	97.9%	711	99.2%	71	97.4%	641	99.4%	31	110.0%	65	96.1%	277	98.1%	272	92.0%
第2四半期	1,199	99.8%	809	100.1%	63	101.6%	746	100.0%	72	93.7%	674	100.7%	31	110.8%	67	97.0%	292	98.8%	270	93.8%
第3四半期	1,149	99.3%	789	98.5%	99	97.3%	690	98.7%	82	103.0%	608	98.1%	38	114.3%	61	96.3%	262	100.8%	249	91.9%
第4四半期	1,078	97.2%	740	96.3%	86	106.0%	654	95.1%	68	93.9%	586	95.3%	35	113.5%	58	92.4%	245	99.3%	248	91.2%
上期	2,382	99.4%	1,620	99.6%	163	99.3%	1,458	99.6%	143	95.5%	1,315	100.1%	62	110.4%	132	96.5%	568	98.4%	542	92.9%
下期	2,228	98.3%	1,529	97.4%	185	101.2%	1,344	96.9%	150	98.7%	1,194	96.7%	73	114.0%	119	94.4%	507	100.0%	496	91.5%
年度計	4,610	98.8%	3,149	98.5%	348	100.3%	2,801	98.3%	293	97.1%	2,509	98.4%	135	112.3%	250	95.5%	1,076	99.2%	1,039	92.2%

表3-2: 2023年度の牛乳等生産量(網掛け:実績 白色:見通し)

(千kl)

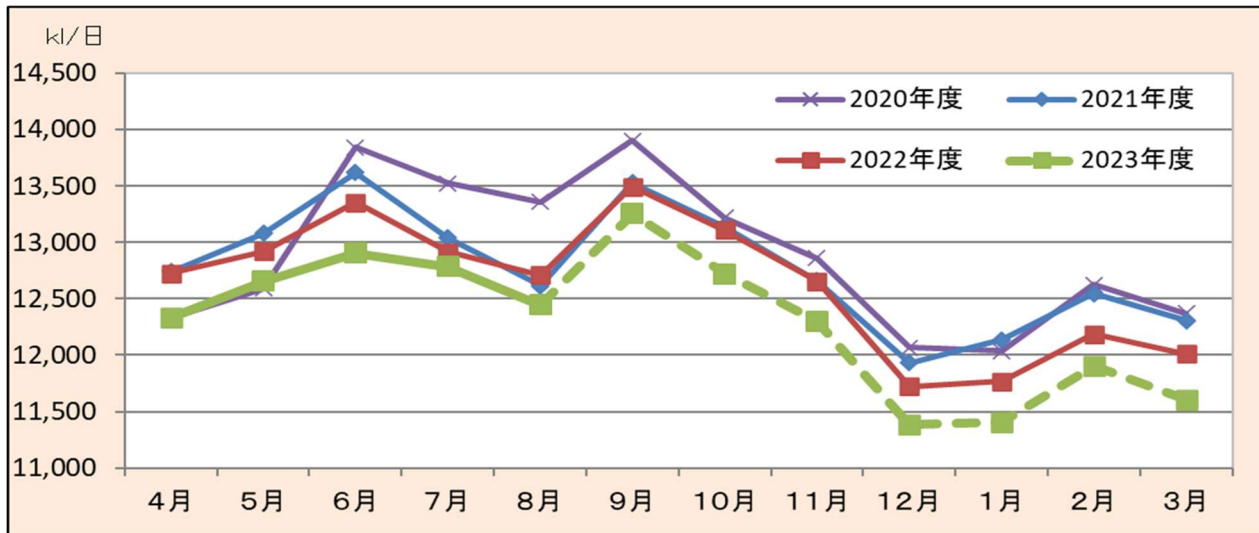
	牛乳類										加工乳	成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳				
	牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外			前年比	前年比	前年比	前年比					
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比												
4月	370	96.9%	252	96.8%	27	101.3%	226	96.2%	23	95.0%	203	96.4%	12	115.3%	20	92.5%	86	96.3%	83	92.3%
5月	392	98.0%	268	97.5%	35	101.3%	233	96.9%	22	90.0%	211	97.7%	12	113.1%	21	94.1%	91	98.6%	86	94.0%
6月	387	96.6%	266	96.7%	37	96.0%	228	96.8%	19	88.4%	209	97.6%	11	108.0%	20	93.4%	91	96.0%	86	95.0%
7月	396	99.0%	267	98.6%	22	101.0%	244	98.4%	21	95.5%	223	98.7%	11	106.2%	22	94.8%	98	100.1%	87	94.9%
8月	386	97.9%	249	95.2%	6	90.6%	243	95.3%	22	86.2%	221	96.3%	11	104.7%	21	94.9%	104	105.1%	84	92.7%
9月	398	98.2%	270	97.3%	33	98.4%	237	97.2%	23	92.3%	214	97.7%	11	101.1%	21	94.4%	96	101.3%	83	94.5%
10月	394	97.0%	271	96.5%	36	102.0%	235	95.7%	25	87.8%	209	96.7%	11	96.7%	20	91.4%	92	100.0%	82	93.4%
11月	369	97.2%	253	97.7%	35	100.0%	218	97.3%	26	95.9%	192	97.5%	11	90.1%	18	90.6%	86	98.4%	76	93.8%
12月	353	97.2%	243	97.8%	29	102.3%	214	97.2%	25	97.4%	189	97.2%	12	89.6%	17	88.0%	81	98.8%	74	92.6%
1月	354	97.0%	244	97.3%	29	98.8%	215	97.1%	22	97.2%	193	97.1%	11	86.4%	18	88.2%	82	99.7%	79	94.5%
2月	345	101.2%	240	101.0%	34	99.7%	206	101.2%	21	104.7%	185	100.8%	10	93.4%	17	93.1%	78	104.8%	77	98.3%
3月	360	96.6%	243	96.4%	22	95.6%	221	96.5%	24	95.0%	197	96.7%	11	89.8%	18	87.4%	88	100.2%	82	95.0%
第1四半期	1,149	97.2%	786	97.0%	99	99.2%	687	96.6%	64	91.2%	623	97.2%	34	112.2%	60	93.3%	268	97.0%	255	93.8%
第2四半期	1,180	98.4%	786	97.1%	62	98.5%	724	97.0%	66	91.1%	658	97.6%	33	104.0%	63	94.7%	298	102.2%	254	94.1%
第3四半期	1,116	97.1%	767	97.3%	100	101.4%	667	96.7%	76	93.5%	591	97.1%	35	92.0%	55	90.0%	260	99.1%	232	93.3%
第4四半期	1,058	98.2%	727	98.2%	85	98.3%	642	98.2%	67	98.6%	575	98.1%	31	89.7%	52	89.4%	248	101.4%	238	95.9%
上期	2,329	97.8%	1,572	97.0%	161	98.9%	1,411	96.8%	130	91.2%	1,281	97.4%	67	108.0%	124	94.0%	566	99.7%	509	93.9%
下期	2,175	97.6%	1,494	97.7%	185	99.9%	1,309	97.4%	143	95.8%	1,165	97.6%	66	90.9%	107	89.7%	508	100.2%	470	94.6%
年度計	4,504	97.7%	3,066	97.4%	346	99.5%	2,720	97.1%	274	93.5%	2,446	97.5%	133	98.8%	230	92.0%	1,075	99.9%	979	94.2%

【2023年度の牛乳等生産量の見通し】「牛乳類」は4,504千kl・前年比97.7%。内訳として「牛乳」3,066kl・同97.4%、「加工乳」133千kl・同98.8%、「成分調整牛乳」230千kl・同92.0%、「乳飲料」1,075千kl・同99.9%。「はっ酵乳」は、979千kl・同94.2%と見込んだ。飲用等向・はっ酵乳等向の生乳取引価格改定となった8月は、牛乳類前年比97.9%、はっ酵乳92.7%となった。

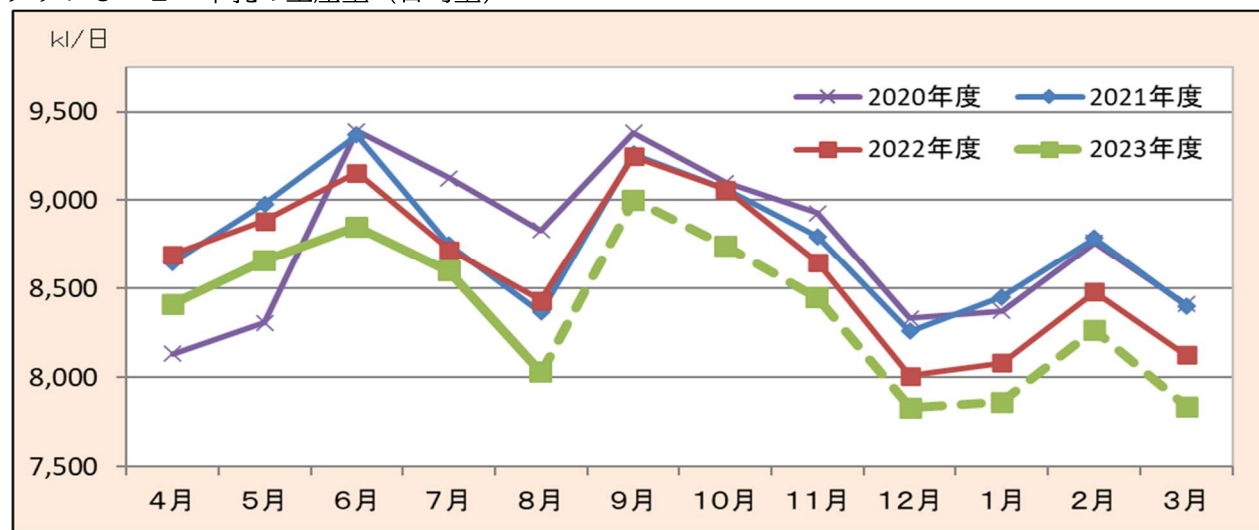
※9月以降は、過去の生乳取引価格引き上げと需要減少の相関を基に予測(前提条件等はP1-2を参照)。

【前回見通し(7/28公表)】: 「牛乳類」は4,415千kl・前年比95.8%。内訳として「牛乳」3,041kl・同96.6%、「加工乳」138千kl・同102.3%、「成分調整牛乳」230千kl・同91.9%、「乳飲料」1,006千kl・同93.5%。「はっ酵乳」、965千kl・同92.9%

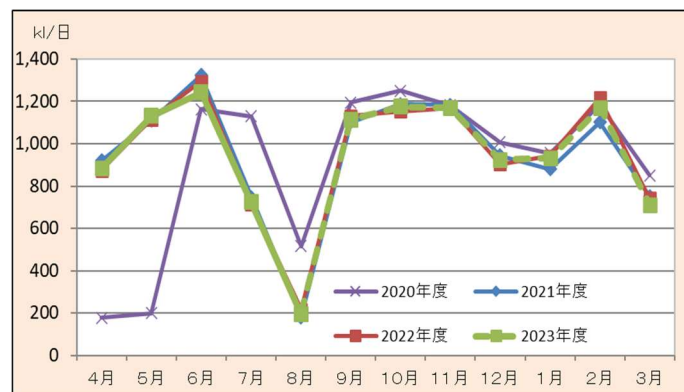
グラフ 3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



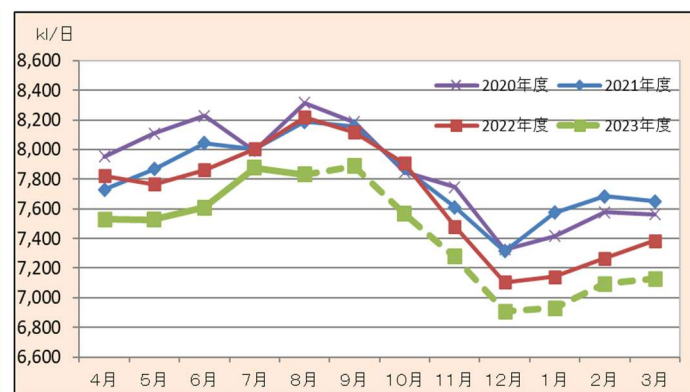
グラフ 3-2：牛乳の生産量（日均量）



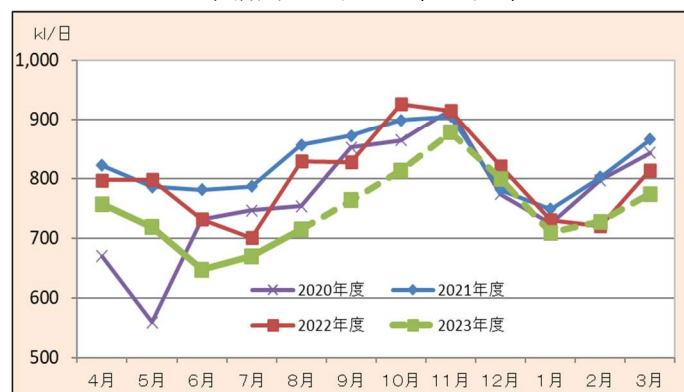
グラフ 3-3：学乳の生産量（日均量）



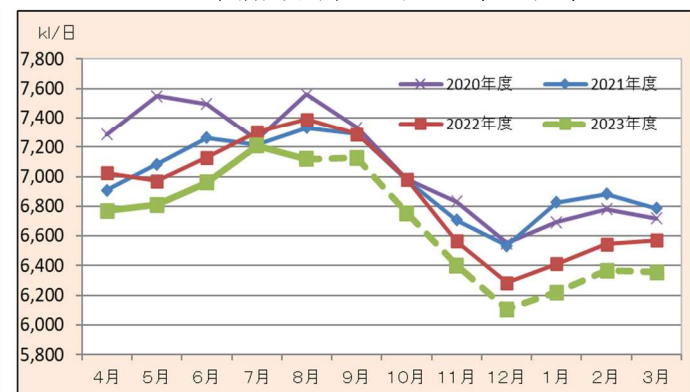
グラフ 3-4：学乳以外の生産量（日均量）



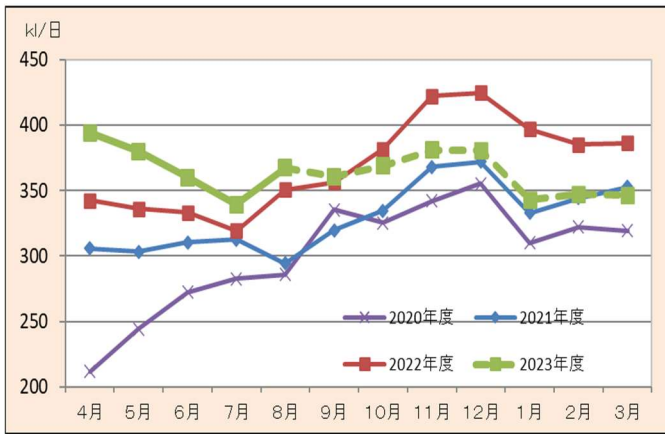
グラフ 3-5：業務用の生産量（日均量）



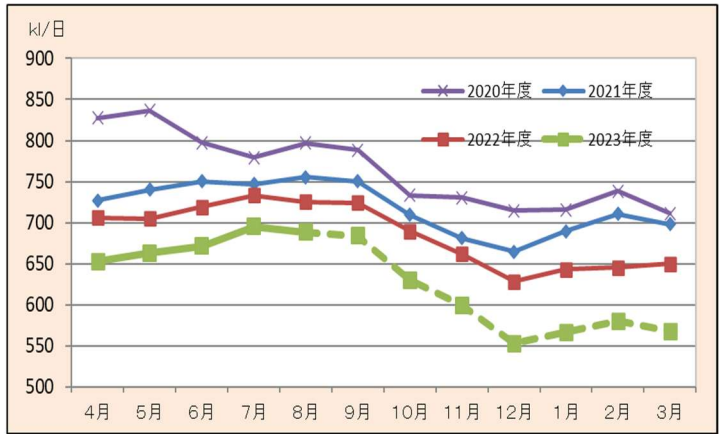
グラフ 3-6：業務用以外の生産量（日均量）



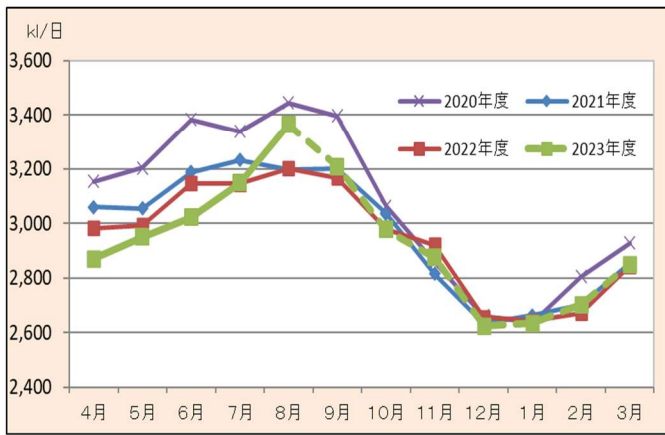
グラフ 3-7：加工乳の生産量（日均量）



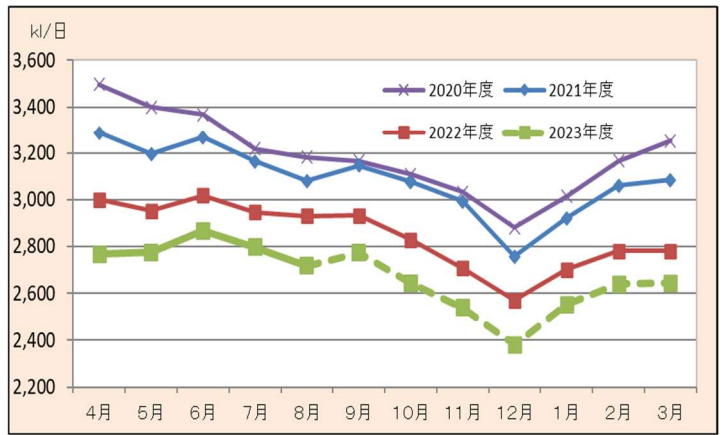
グラフ 3-8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3-9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 3-10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2022年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	657	102.0%	4	91.0%	653	102.1%	333	100.1%	320	104.3%	179	105.9%	38	98.4%	104	103.8%
5月	679	101.2%	4	91.6%	675	101.3%	350	98.9%	325	104.1%	180	105.2%	40	108.6%	105	100.7%
6月	643	100.4%	4	91.5%	639	100.4%	348	97.7%	291	103.8%	150	105.3%	38	105.4%	103	101.3%
7月	645	101.0%	4	89.0%	642	101.1%	350	101.4%	291	100.6%	145	100.6%	40	107.9%	107	98.1%
8月	627	99.8%	4	90.6%	623	99.8%	336	100.4%	288	99.2%	148	98.3%	38	105.3%	102	98.4%
9月	606	98.8%	4	93.6%	602	98.9%	349	99.9%	253	97.4%	117	94.8%	35	102.5%	101	99.0%
10月	622	98.6%	4	96.3%	618	98.6%	353	99.5%	265	97.4%	123	95.0%	35	97.5%	107	100.4%
11月	597	97.2%	4	93.7%	593	97.2%	325	98.8%	268	95.4%	126	91.7%	36	109.2%	107	95.9%
12月	621	96.2%	4	94.9%	617	96.2%	313	98.0%	304	94.4%	162	92.6%	39	100.8%	103	95.2%
1月	624	96.0%	4	91.6%	620	96.0%	319	96.0%	301	96.1%	165	94.2%	39	105.4%	98	96.0%
2月	570	95.5%	4	95.0%	567	95.5%	300	96.7%	267	94.1%	142	90.1%	33	98.4%	92	99.4%
3月	641	95.3%	4	103.1%	637	95.2%	321	96.8%	316	93.7%	171	89.4%	39	97.9%	107	99.7%
第1四半期	1,978	101.2%	11	91.4%	1,967	101.3%	1,031	98.9%	936	104.1%	508	105.5%	116	104.0%	312	101.9%
第2四半期	1,879	99.9%	11	91.0%	1,867	99.9%	1,035	100.6%	832	99.1%	410	98.0%	113	105.3%	309	98.5%
第3四半期	1,840	97.3%	12	95.0%	1,828	97.3%	991	98.8%	838	95.7%	411	93.0%	110	102.3%	316	97.1%
第4四半期	1,836	95.6%	12	96.4%	1,824	95.6%	940	96.5%	884	94.6%	477	91.3%	111	100.6%	296	98.3%
上期	3,857	100.6%	23	91.2%	3,834	100.6%	2,066	99.7%	1,768	101.7%	918	102.0%	229	104.7%	621	100.2%
下期	3,676	96.4%	23	95.7%	3,652	96.4%	1,931	97.6%	1,721	95.1%	888	92.1%	221	101.4%	612	97.7%
年度計	7,533	98.5%	46	93.4%	7,486	98.5%	3,997	98.7%	3,489	98.4%	1,806	96.9%	450	103.0%	1,233	98.9%

表4-2：2023年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績 白色：見通し）

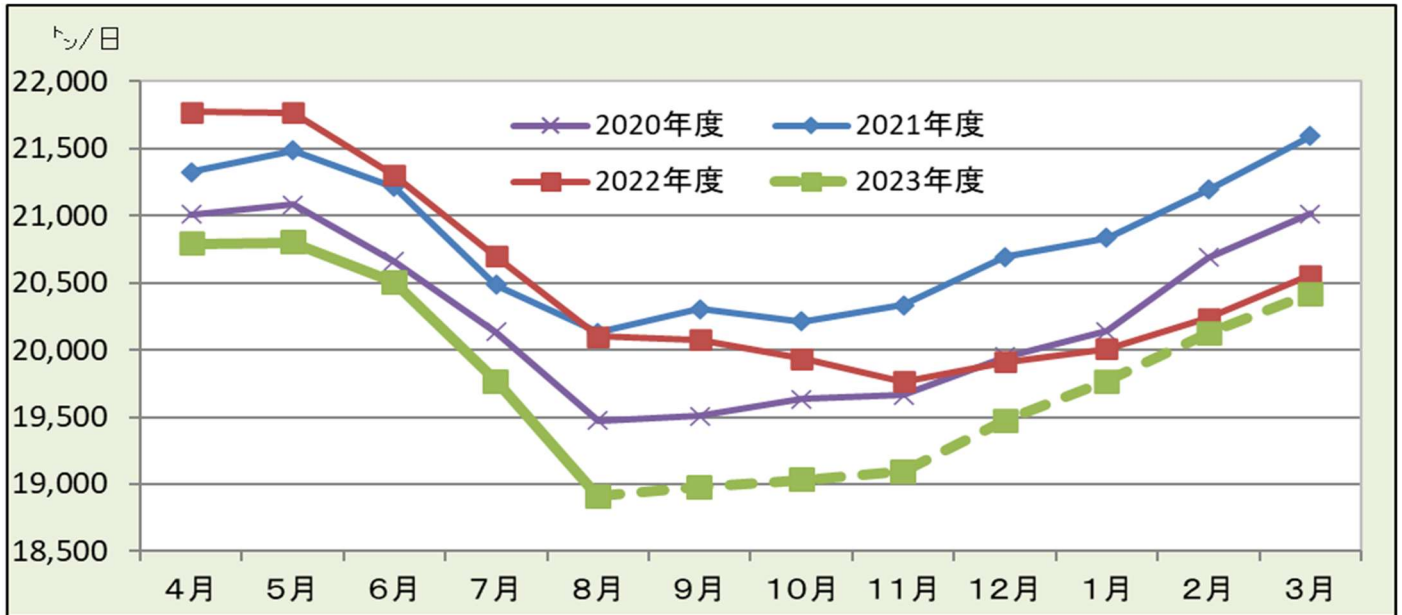
（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	628	95.6%	4	105.0%	624	95.5%	321	96.4%	303	94.6%	163	91.0%	39	103.1%	101	97.7%
5月	649	95.6%	4	106.5%	645	95.6%	339	97.0%	305	94.0%	166	92.7%	38	94.9%	101	96.0%
6月	619	96.3%	4	105.7%	615	96.3%	337	96.7%	278	95.7%	144	96.1%	36	93.3%	99	96.0%
7月	616	95.5%	4	97.8%	613	95.5%	339	96.7%	274	94.1%	134	92.7%	37	92.9%	103	96.3%
8月	590	94.1%	4	103.5%	586	94.1%	321	95.8%	265	92.1%	128	86.9%	35	92.3%	101	99.5%
9月	573	94.5%	4	94.6%	569	94.5%	339	97.3%	230	90.8%	97	82.4%	33	94.5%	100	99.2%
10月	594	95.5%	4	95.6%	590	95.5%	339	96.2%	251	94.5%	113	91.5%	37	104.2%	101	94.7%
11月	577	96.6%	4	96.7%	573	96.6%	315	97.1%	258	96.0%	119	94.7%	34	95.1%	104	97.9%
12月	608	97.8%	4	97.7%	604	97.8%	304	96.9%	300	98.8%	161	99.5%	37	93.8%	102	99.6%
1月	617	98.8%	4	98.6%	613	98.8%	309	96.6%	304	101.1%	172	104.3%	38	97.6%	95	96.9%
2月	588	103.0%	4	102.8%	584	103.0%	301	100.5%	282	105.8%	159	112.0%	34	103.6%	89	96.9%
3月	637	99.3%	4	99.3%	633	99.3%	308	96.0%	325	102.8%	183	107.4%	38	98.7%	103	96.9%
第1四半期	1,896	95.8%	12	105.7%	1,884	95.8%	997	96.7%	887	94.7%	473	93.1%	112	97.0%	301	96.6%
第2四半期	1,780	94.7%	11	98.6%	1,768	94.7%	1,000	96.6%	769	92.4%	359	87.7%	105	93.2%	304	98.3%
第3四半期	1,778	96.6%	11	96.6%	1,767	96.6%	958	96.7%	809	96.5%	393	95.6%	108	97.5%	308	97.4%
第4四半期	1,841	100.3%	12	100.2%	1,829	100.3%	918	97.6%	911	103.1%	514	107.7%	110	99.8%	287	96.9%
上期	3,676	95.3%	23	102.2%	3,652	95.3%	1,997	96.7%	1,655	93.6%	832	90.7%	218	95.1%	605	97.4%
下期	3,619	98.5%	23	98.4%	3,596	98.5%	1,876	97.2%	1,720	99.9%	907	102.1%	218	98.7%	595	97.2%
年度計	7,295	96.8%	46	100.3%	7,248	96.8%	3,873	96.9%	3,375	96.7%	1,739	96.3%	436	96.9%	1,200	97.3%

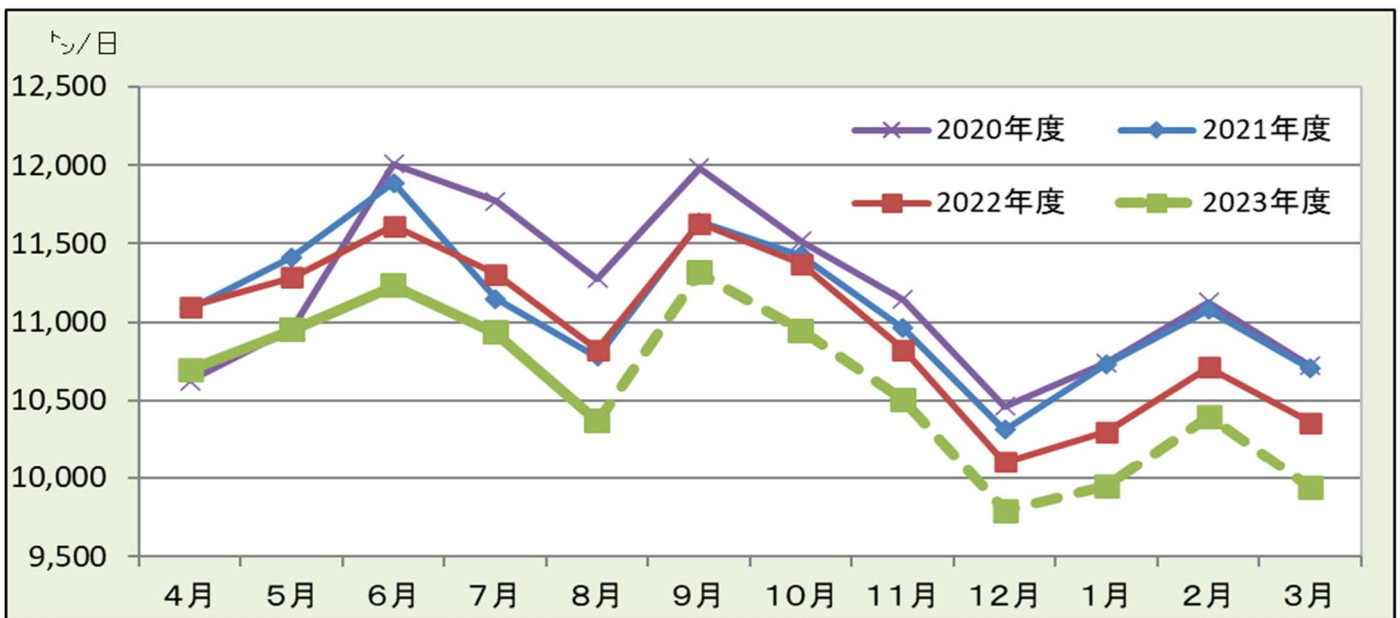
【2023年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」7,248千トン・前年比96.8%、「飲用等向処理量」3,873千トン・同96.9%、差し引き「乳製品向処理量」は3,375千トン・同96.7%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」436千トン・同96.9%、「生クリーム等向」は1,200千トン・同97.3%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,739千トン・同96.3%と前年を下回る見通し。

【前回見通し(7/28公表)】:「生乳供給量」7,346千トン・前年比98.1%、「飲用等向処理量」3,839千トン・同96.0%、「乳製品向処理量」は3,507千トン・同100.5%(うち、「チーズ向」440千トン・同97.8%、「生クリーム等向」1,189千トン・同96.4%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,879千トン・同104.0%)。

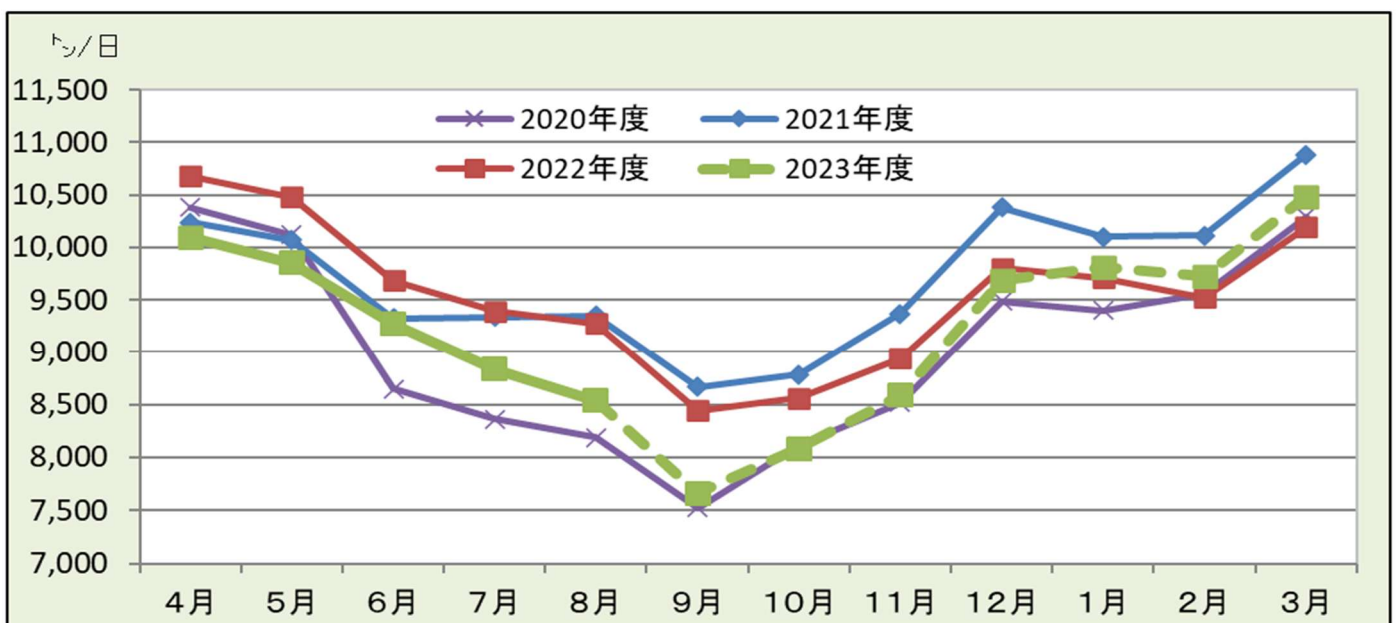
グラフ4-1：生乳供給量（日均量）



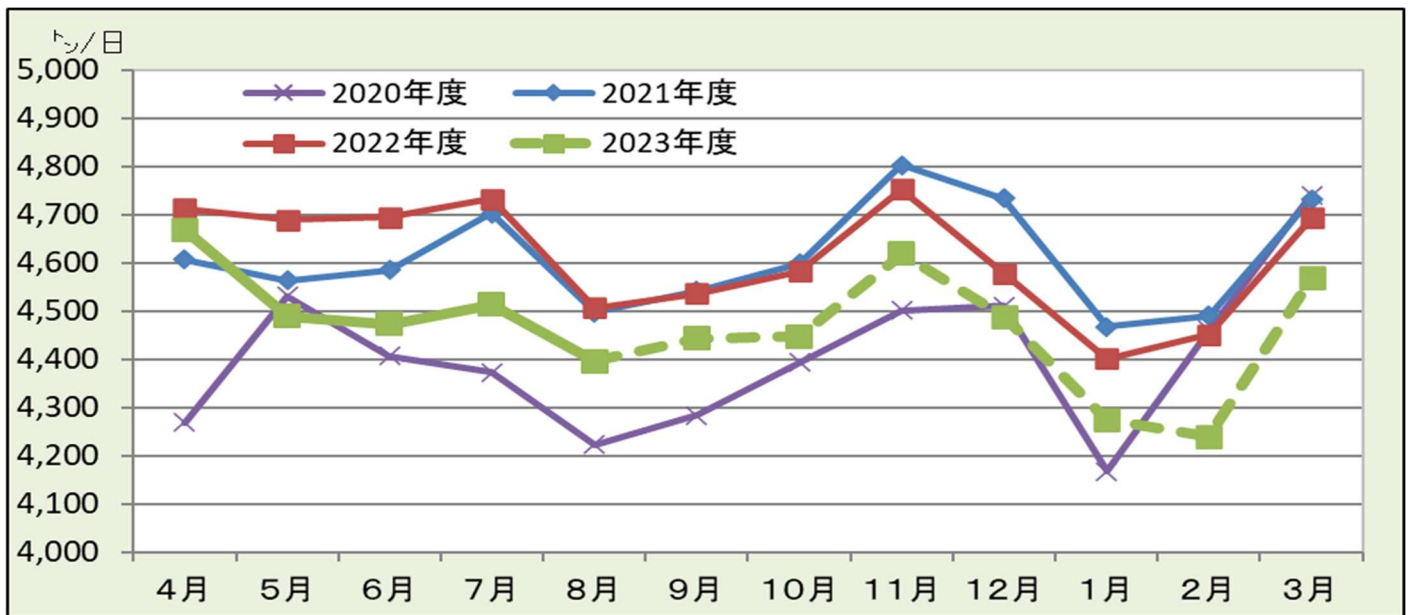
グラフ4-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



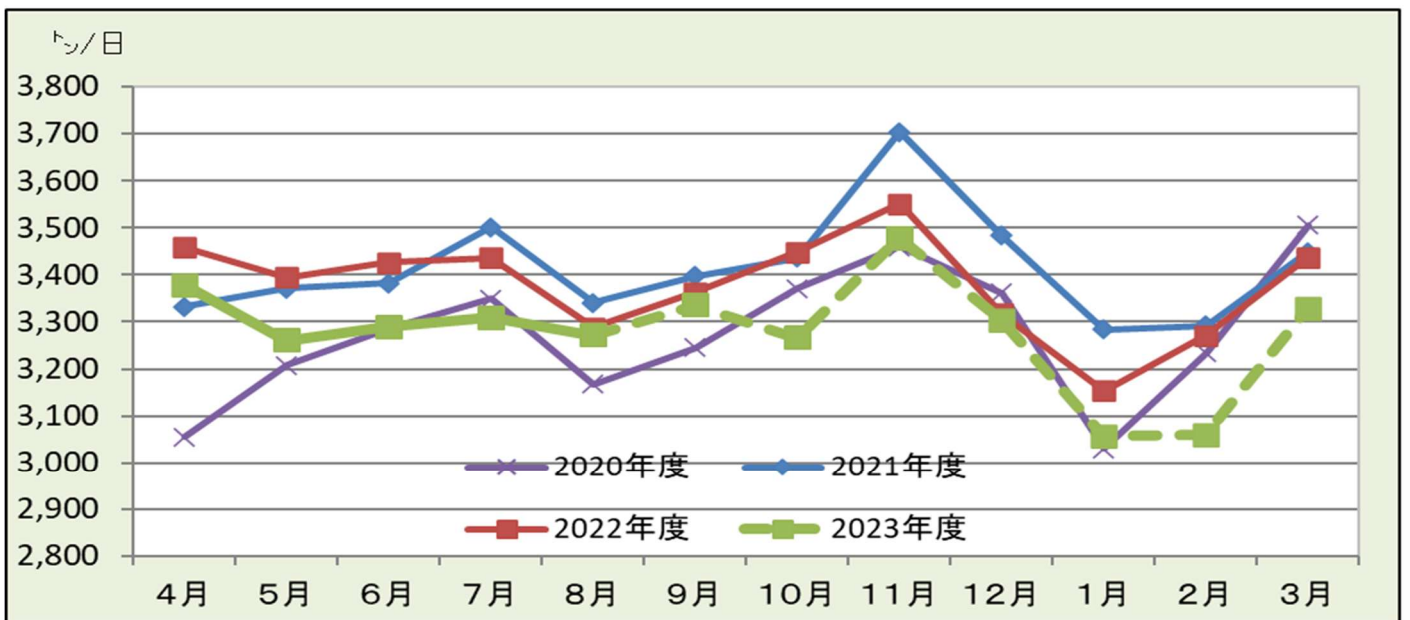
グラフ4-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



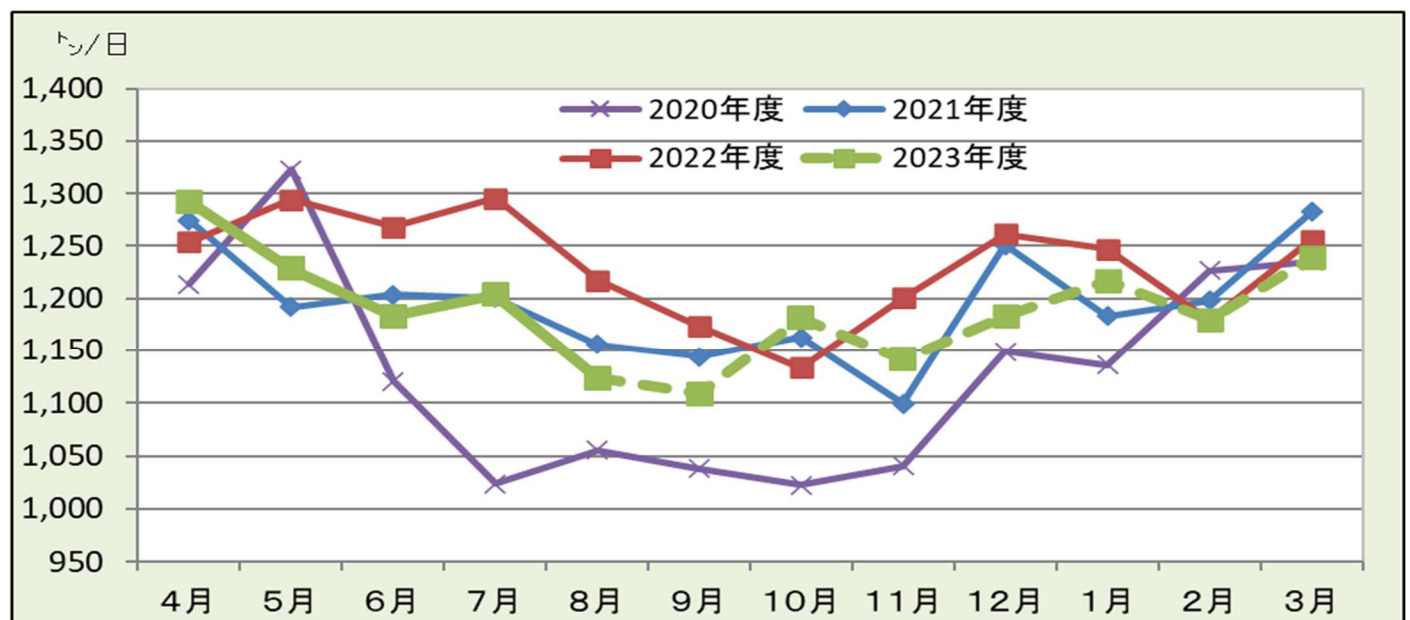
グラフ4-4：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ4-5：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ4-6：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1: 2022年度の脱脂粉乳の需給(網掛け:実績)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	97.7	120.4%	43.1	107.1%	0.1	6.4	104.1	115.2%	6.6	9.3	36.8	116.5%
第2四半期	104.1	115.2%	34.1	97.1%	0.0	-11.2	92.8	103.3%	5.9	8.3	45.4	127.4%
第3四半期	92.8	103.3%	36.5	91.4%	0.0	-10.4	82.4	87.1%	5.3	7.4	47.0	133.1%
第4四半期	82.4	87.1%	40.7	91.6%	0.0	-18.0	64.4	65.9%	4.1	5.8	58.7	142.0%
上期	97.7	120.4%	77.2	102.4%	0.1	-4.9	92.8	103.3%	5.9	8.3	82.2	122.3%
下期	92.8	103.3%	77.2	91.5%	0.1	-28.4	64.4	65.9%	4.1	5.8	105.7	137.9%
年度計	97.7	120.4%	154.4	96.7%	0.2	-33.3	64.4	65.9%	4.1	5.8	187.9	130.6%

118.6	121.4%	7.6	10.6	133.7	106.3%
-------	--------	-----	------	-------	--------

※各対策を考慮しない場合(ホクレンの対策のうち2022出回り分(R3、R4対策)+ALLG+生処(Jミルク)) ※各対策分を考慮しない場合の出回り量(対策無し通常需要)

表5-2: 2023年度の脱脂粉乳の需給(見通し)

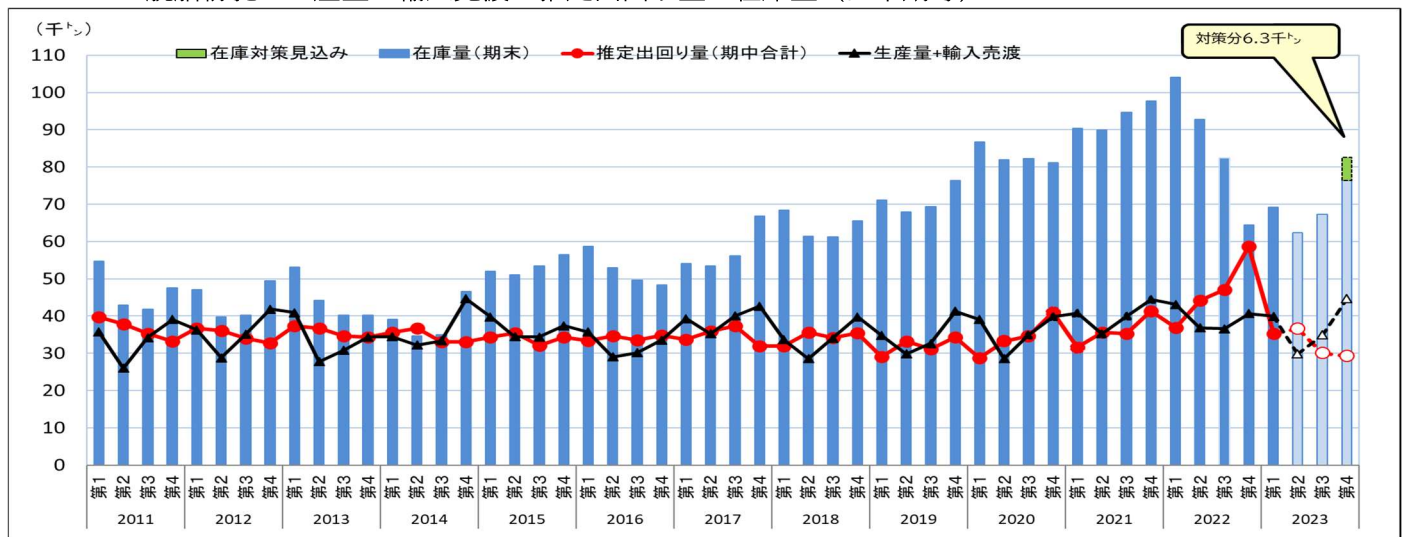
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	過不足 B+C-D	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	64.4	65.9%	39.7	92.2%	0.3	4.7	69.1	66.4%	6.3	6.5	35.2	95.7%
第2四半期	69.1	66.4%	29.7	86.9%	0.1	-6.8	62.4	67.2%	5.7	5.9	36.6	80.6%
第3四半期	62.4	67.2%	34.9	95.6%	0.0	4.9	67.2	81.6%	6.2	6.3	30.1	64.0%
第4四半期	67.2	81.6%	43.8	107.7%	0.8	15.3	82.6	128.2%	7.6	7.8	29.2	49.8%
上期	64.4	65.9%	69.3	89.9%	0.4	-2.0	62.4	67.2%	5.7	5.9	71.8	87.4%
下期	62.4	67.2%	78.7	102.0%	0.8	20.2	82.6	128.2%	7.6	7.8	59.3	56.1%
年度計	64.4	65.9%	148.1	95.9%	1.2	18.2	82.6	128.2%	7.6	7.8	131.1	69.8%

※配分済対策分を除く過不足: 22.2

76.3	118.5%	7.0	7.2	137.4	73.1%
------	--------	-----	-----	-------	-------

※Jミルク対策のうち2023年度配分済分を考慮(2022年度繰り越し分) ※各対策分を考慮した出回り量

グラフ5: 脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量(四半期毎)



【2023年度の脱脂粉乳需給の見通し】「生産量」148.1千トン・前年比95.9%、「推定出回り量」131.1千トン・同69.8%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では95.1%)となる見通し。「輸入売渡し」1.2千トンと仮定(※1)し、「年度末在庫量」82.6千トン・同128.2%、単年度ギャップは22.2千トンと見込む。2022年度の業界協調の在庫削減対策のうち2023年度の出回りとなる数量10.3千トンを反映(約4.0千トンは4-8月の実績に含まれている)すると年度末在庫量は76.3千トン・同118.5%。なお、2023年度事業分は海外相場の変動等の環境変化を踏まえて事業の運用詳細について検討中であるため、本見通しでは考慮していない。

※1:2023年度枠(0.75千トン)から輸入売渡を推定、2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計1.2千トン。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(7/28公表)】:「生産量」160.3千トン・前年比103.9%、「推定出回り量」123.4千トン・同65.7%(2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では90.9%)。「輸入売渡し」1.1千トンと仮定、「年度末在庫量」102.5千トン・同159.2%、単年度ギャップは40.0千トン。

表5'-1：2022年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数
第1四半期	39.6	101.8%	21.0	105.5%	2.0	2.2	41.8	98.9%	5.4	5.7	20.7	107.8%
第2四半期	41.8	98.9%	16.5	100.0%	2.2	-2.7	39.0	93.6%	5.0	5.3	21.5	116.5%
第3四半期	39.0	93.6%	15.8	93.3%	2.4	-8.2	30.8	83.1%	4.0	4.2	26.4	110.7%
第4四半期	30.8	83.1%	19.9	91.3%	2.4	-2.0	28.8	72.9%	3.7	3.9	24.3	113.8%
上期	39.6	101.8%	37.5	103.0%	4.2	-0.6	39.0	93.6%	5.0	5.3	42.2	112.0%
下期	39.0	93.6%	35.7	92.2%	4.8	-10.2	28.8	72.9%	3.7	3.9	50.7	112.2%
年度計	39.6	101.8%	73.2	97.4%	9.0	-10.7	28.8	72.9%	3.7	3.9	92.9	112.1%

33.5	84.7%	4.3	4.6	88.2	106.5%
※ホクレンの対策を考慮しない場合				※対策分を考慮しない場合の出 回り量(対策無し通常需要)	

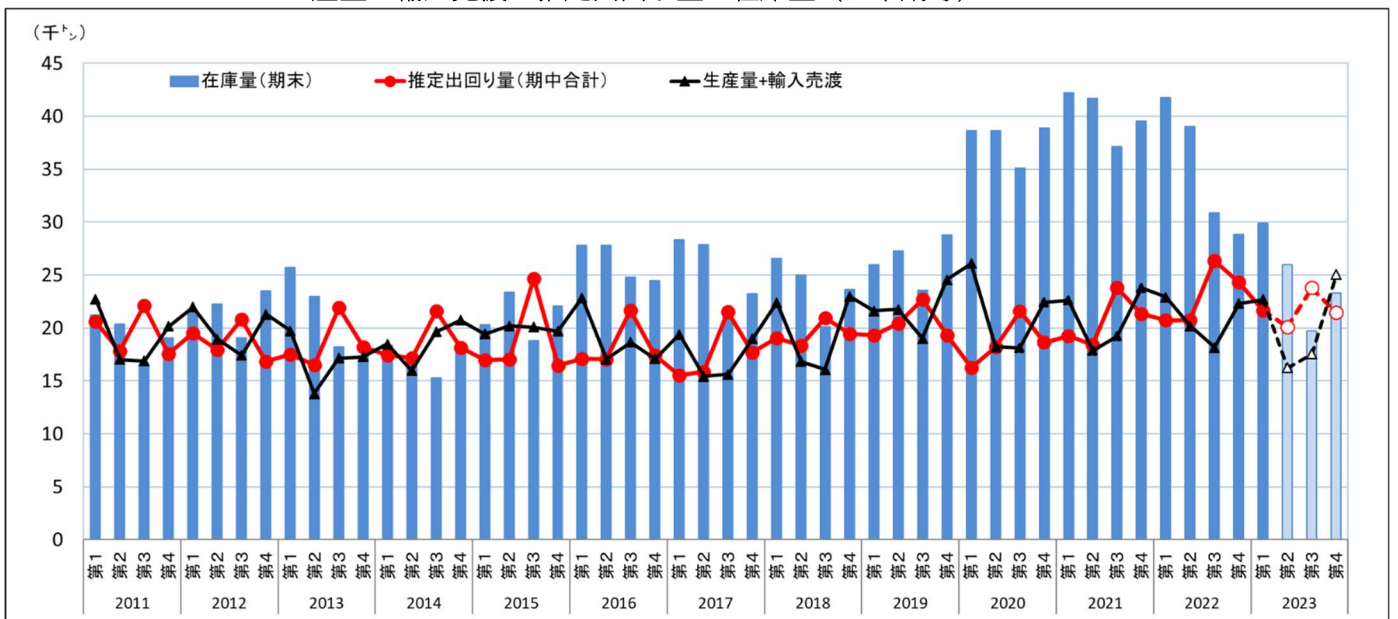
表5'-2：2023年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数
第1四半期	28.8	72.9%	19.0	90.7%	3.7	1.0	29.9	71.5%	4.1	4.1	21.6	104.4%
第2四半期	29.9	71.5%	14.1	85.4%	2.1	-3.9	26.0	66.6%	3.6	3.6	20.1	93.7%
第3四半期	26.0	66.6%	15.1	95.6%	2.4	-6.2	19.7	64.0%	2.7	2.7	23.8	90.3%
第4四半期	19.7	64.0%	21.4	107.7%	3.6	3.6	23.3	80.8%	3.2	3.2	21.5	88.2%
上期	28.8	72.9%	33.1	88.4%	5.8	-2.9	26.0	66.6%	3.6	3.6	41.8	98.9%
下期	26.0	66.6%	36.5	102.3%	6.0	-2.7	23.3	80.8%	3.2	3.2	45.2	89.3%
年度計	28.8	72.9%	69.6	95.2%	11.8	-5.5	23.3	80.8%	3.2	3.2	87.0	93.7%

※前年対策除く出
回り量との比： 98.6%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2023年度のバター需給の見通し】「生産量」69.6千トン・前年比 95.2%、「推定出回り量」87.0千トン・同 93.7% (2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では 98.6%)となる見通し。「輸入売渡し」11.8千トンと仮定(※1)し、「年度末在庫量」23.3千トン・同 80.8%、単年度ギャップは▲5.5千トンと見込む。

※1:2023年度枠(8.0千トン)から輸入売渡を推定。2022年度枠の輸入売渡を考慮すると合計 11.8千トン。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(7/28公表)】:「生産量」75.6千トン・前年比 103.3%、「推定出回り量」87.5千トン・同 94.2% (2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では 99.2%)。「輸入売渡し」10.4千トンと仮定、「年度末在庫量」27.3千トン・同 94.8%、単年度ギャップは▲1.5千トン。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1: 2022年度の都府県の需給(網掛け:実績)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	291	100.4%	285	99.4%	6	104.8%	1	31	99.6%	32	108.4%
5月	297	99.8%	302	98.6%	5	101.9%	-10	37	102.1%	27	119.4%
6月	277	99.9%	300	97.0%	5	101.5%	-27	43	90.5%	15	139.1%
7月	272	100.5%	298	100.3%	5	103.5%	-31	48	104.6%	17	116.9%
8月	261	98.4%	285	100.0%	5	99.7%	-29	48	106.0%	19	92.4%
9月	256	98.6%	298	99.1%	5	100.9%	-47	55	97.4%	9	78.7%
10月	267	98.9%	302	99.3%	5	99.0%	-41	51	101.2%	10	98.6%
11月	259	97.6%	279	98.5%	6	97.6%	-26	38	98.6%	12	82.1%
12月	270	97.3%	269	98.1%	6	100.7%	-6	35	100.7%	30	93.1%
1月	273	97.1%	275	96.5%	5	94.3%	-7	33	97.2%	26	104.7%
2月	251	96.6%	258	96.5%	5	99.9%	-12	32	92.3%	20	90.2%
3月	284	96.1%	276	97.3%	6	101.2%	3	31	99.4%	34	89.3%
第1四半期	866	100.0%	887	98.3%	16	102.7%	-37	111	96.6%	74	117.8%
第2四半期	789	99.2%	881	99.8%	15	101.4%	-107	151	102.3%	44	97.0%
第3四半期	795	97.9%	850	98.6%	17	99.1%	-72	124	100.2%	52	91.3%
第4四半期	808	96.6%	809	96.8%	15	98.5%	-17	96	96.2%	79	94.0%
上期	1,654	99.6%	1,767	99.0%	31	102.1%	-144	262	99.8%	119	109.1%
下期	1,603	97.2%	1,659	97.7%	32	98.8%	-88	219	98.4%	131	92.9%
年度計	3,257	98.4%	3,427	98.4%	63	100.4%	-232	482	99.2%	250	100.0%

表6-2: 2023年度の都府県の需給(網掛け:実績 白色:見通し)

(千トン)

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	95.1%	275	96.5%	6	103.4%	-4	31	100.6%	27	86.7%
5月	281	94.4%	292	96.9%	5	98.0%	-17	38	102.5%	21	77.6%
6月	261	94.2%	289	96.6%	5	100.0%	-33	47	108.8%	13	86.6%
7月	256	94.3%	289	97.1%	5	97.5%	-38	52	107.5%	14	82.1%
8月	245	94.0%	274	95.9%	5	94.8%	-33	49	101.5%	15	83.2%
9月	240	93.9%	291	97.6%	5	100.0%	-55	61	110.7%	6	68.3%
10月	252	94.6%	290	96.0%	5	100.0%	-43	53	103.6%	10	95.0%
11月	247	95.4%	271	97.2%	6	100.0%	-30	42	111.5%	12	101.4%
12月	261	96.6%	261	96.9%	6	100.0%	-7	34	97.2%	28	93.5%
1月	266	97.5%	266	96.5%	5	100.0%	-5	32	97.1%	28	107.2%
2月	255	101.8%	259	100.2%	5	100.0%	-8	32	100.8%	24	121.8%
3月	280	98.6%	263	95.4%	6	100.0%	11	30	96.7%	41	122.4%
第1四半期	819	94.6%	857	96.7%	16	100.5%	-54	116	104.4%	62	83.3%
第2四半期	742	94.1%	853	96.9%	15	97.4%	-126	162	106.8%	35	79.9%
第3四半期	760	95.5%	822	96.7%	17	100.0%	-79	129	104.2%	50	95.6%
第4四半期	802	99.2%	788	97.3%	15	100.0%	-1	94	98.2%	93	117.3%
上期	1,561	94.3%	1,710	96.8%	30	99.0%	-180	277	105.8%	97	82.0%
下期	1,561	97.4%	1,609	97.0%	32	100.0%	-80	223	101.5%	142	108.7%
年度計	3,122	95.8%	3,320	96.9%	62	99.5%	-261	500	103.8%	240	96.0%

【2023年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,122千トン・前年比95.8%、「飲用等向処理量」は3,320千トン・同96.9%、北海道から都府県への「移入量(道外移出量)」は、500千トン・同103.8%と予測。年度では、飲用等向の減少以上に生乳供給量が減少する予測であり、移入量は前年を上回り、脱脂粉乳・バター等向は前年を下回ると見込まれる。ただし、1月以降の脱脂粉乳・バター等向は前年を上回る見通し。

【前回見通し(7/28公表)】:「生乳供給量」3,132千トン・96.2%、「飲用等向」3,286千トン・95.6%、「移入量(道外移出量)」480千トン・99.6%。飲用最需要期となる9月については61千トン・110.7%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

今年度上期の生乳生産量は北海道、都府県ともに前年を下回る推移となっているが、下期に向かってわずかながら搾乳牛頭数が増加する見通しであることや北海道における今年度産の自給粗飼料は昨年よりも比較的良質であることが見込まれており、冬期の全国の生乳生産量は減少率が縮小するものと想定される。

一方、飲用需要は相次ぐ物価高騰により生活者の家計防衛意識が高まるなか、8月の飲用等向乳価引き上げによる牛乳類を中心とした製品価格の改定が重なり、前年を下回る水準となっている。

このような状況下のなか、今夏（6～8月）の平均気温は1898年の統計開始以降過去最高の記録的な猛暑となったことで、北海道の生乳生産量は8月下旬に前年比▲約10%と、胆振東部地震による災害時を除けば過去20年で最も大きな減少幅となり、都府県においても各地区で影響を及ぼしている。今後は乳牛の暑熱ダメージの蓄積が個体乳量の低下を招く懸念がある一方で、猛暑により需要が下支えされた可能性が考えられるため、生乳生産量と飲用需要は予測値よりも減少することも想定され、需給動向はこれまで以上に不透明感が強い。

これらを踏まえ、短期で変化する需給を取り巻く環境に引き続き注視しつつ、生乳生産量及び飲用需要の動向を見極めるとともに、今後、飲用不需要期を迎えるにあたり下記の事項について取り組む必要がある。

1. 脱脂粉乳・バターの需給調整・対策の実施について

酪農乳業界にとって大きな課題の一つである脱脂粉乳とバターの需要の乖離は、引き続き継続が見込まれ、両品目それぞれの需給状況に対応した取り組みが不可欠である。

脱脂粉乳については、前回の需給見通し（7/28公表）から生産量と需要量の単年度ギャップは縮小したものの、無脂乳固形分を使用した製品のうち、はっ酵乳は低調に推移すると見込まれており、在庫量は在庫削減対策を実施しない場合、期末在庫が約83千トと依然として高い水準が想定される。引き続き脱脂粉乳の在庫積み増しを避けるべく、牛乳乳製品の需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、在庫量を適正水準に削減するために全国協調の在庫削減対策による飼料や海外乳製品等との置換を最大限進めることが求められる。

一方、バターについては国内旅行者・インバウンドが増加しており、業務用を中心に需要は堅調に推移しているなか、一部の需要者には夏季の一時的な生乳需給のひっ迫感から、需要期である冬季に向けて通常以上に在庫を積み増す動きがみられているが、国は乳製品需給等情報交換会議における意見を踏まえ、カレントアクセスの範囲内で毎月のバターの入札量に強弱をつけるなど柔軟な運用をもって対応している。なお、ホクレン（北海道）は生乳生産コストの高止まりや需給動向を鑑みて、乳脂肪分側（生クリーム向と脱脂粉乳・バター等向のうちバター仕向け分）の取引乳価を12月から引き上げることについて、乳業者と合意した経過にある。現時点でバターの需給に大きな懸念はないものの、引き続き消費動向を注視し、需要に対応した安定供給に努め、両品目の需給バランスを整えることが重要となる。

2. 飲用不需要期となる冬期に向けた対応について

本需給見通しにおける第4四半期の乳製品向数量は例年同様高水準の予測となるなか、チーズ向や生クリーム等向は前年を下回る見通しであり、最終的な需給調整弁となる脱脂粉乳・バター等向の仕向量は前年を上回ると見込まれる。12月の取引乳価引き上げの影響が見通しにくいなか、特に学校給食用牛乳の供給が停止し、小売店舗が休業する年末年始は例年同様生乳需給が大きく緩和する可能性もある。

昨年11月から製品価格改定を続けてきた牛乳乳製品は、生活に重要な基礎的な食品であるため、処理不可能乳が発生するような事態となれば、牛乳乳製品の市場価値喪失、消費者からの不信感による消費離れ等、さらなる生産基盤縮小等が想定され、酪農乳業界にとって大きなマイナスとなると考えられる。

これらを踏まえ、牛乳乳製品の栄養面・機能面の訴求、国内の中長期的な食料安全保障や酪農乳業の持続性維持の必要性など、小売・流通や消費者への価格改定の背景と牛乳乳製品の価値への理解醸成活動による市場の活性化に最大限取り組むとともに、乳業工場の稼働最大化など全国で協調した需給調整や乳製品製造に向け、早急に準備を進める必要がある。